

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671700205		
法人名	医療法人 青鳳会		
事業所名	グループホームみま		
所在地	徳島県吉野川市鴨島町上下島499番地21		
自己評価作成日	平成22年12月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3671700205&amp;SCD=320">http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3671700205&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成23年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設の医療機関があるため、緊急時に迅速な対応をとることができる。併設事業所の行事等に参加している。季節に応じて、梅干しや干し柿等をつくっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は車の往来が多い場所に位置している。敷地内に同一法人の医療機関や他の介護サービス事業所、保育所等が隣接して建てられている。同一法人の医療機関や他の事業所と密に連携して緊急時の協力体制を整備し、利用者や家族の安心につながっている。吉野川市グループホーム連絡協議会に参加し、市担当者との連絡を密にして協力関係を築いている。また、地域ボランティアや近隣の方から差し入れをもらう等、地域との交流を大切にしている。管理者や職員は利用者を人生の先輩として敬意を払い、一人ひとりの力を発揮できるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送りの前に理念を声を出して読み上げ、共有している。	毎朝、唱和したりミーティング時に話し合っ て管理者と職員は事業所独自の理念を共有 している。地域とのつながりを大切に考え、日 ごろのケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよ う、事業所自体が地域の一員として日常的に交流 している	老人会や民生児童委員、婦人会、自治 会、子供会等と交流している。	地域の方から果物や花の差し入れをもらったり散 歩や買い物時に挨拶を交わすなど、地域と日常的 に交流している。夏祭りにはボランティアの来訪が ある。地域活動に参加するなど、積極的に交流を 図っている。また、緊急時の避難場所として事業所 を提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	勉強会を行い、活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評 価への取り組み状況等について報告や話し合いを を行い、そこでの意見をサービス向上に活かしてい る	行事報告や勉強会を行いサービスの質の 向上に活かしている。	運営推進会議には家族や地域の方が参加し、事 業所の現状報告や意見交換、学習会を行い、双方 向的な話し合いを行っている。参加者から出された 意見や検討結果は全職員が共し、サービスの質の 向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝え ながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員との連携を図っ ている。	年4回、開催されている吉野川市グルー プホーム連絡協議会に参加している。事業所の 現状報告や意見交換、相談を行い、協力関 係を築いている。地域包括支援センター職員 とも馴染みの関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解して おり、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケア に取り組んでいる	道路に面していることや階段があるなどの 理由により、危険回避のために施錠してい る。	玄関先は交通量も多く階段があり、危険防止の ためにユニットごとに鍵がかけられている。職員は 日ごろのケアの中で話し合い、身体拘束をしない ケアの実践に取り組んでいるが、研修等の全職員 に周知するための取り組みが十分ではない。	身体拘束の内容やその弊害につい て職員間で方針を共有することは重 要であるため、研修を重ねるなど対応 方針を共有できるように取り組まれた い。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につい て学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、 防止に努めている	虐待についての話し合いを行い、虐待の防 止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議で地域包括支援センター職員から話がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行い、理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や地域の方々と話し合う機会を設けている。	運営推進会議や家族の来訪時、意見や要望等を出してもらい、運営に反映させている。2か月に1回、「ほのぼの通信」を発行し、家族に本人の状況を報告して意見や要望を引き出せるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に、現場の職員から運営に関する意見や問題点を聞いており、なるべく反映させている。	月2回の訪問診療時、管理者が代表者に意見を伝える機会があり、職員の気づきやアイデアを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課において、職員一人ひとりを評価しており、モチベーションを上げられるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの希望に応じて、研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市グループホーム連絡協議会を通じて交流している。また、認知症実践者研修で相互交流活動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の体調や状態等に関する情報を、家族やソーシャルワーカーから聞いて把握している。本人の不安が少しでも和らぐように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約書の説明や事業所の案内を通じて、十分に理解を得られるように支援している。また、家族の要望等を聞き、良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望を聞き、何が必要かを把握してからサービスの利用に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を一緒にたたんでもらったり、お膳を拭いてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	食事会や夏祭り等の行事を通じて、家族との交流を図っている。本人をともに支える関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	仲良く会話のできる場所(ホールの席又は玄関の椅子)を大切に支援している。	本人の思いを大切に、馴染みの場所や人との関係が継続できるよう家族に協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室を訪室して声かけを行っている。また、ホールでは他の利用者との会話が楽しめるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他事業所に移動した際にも、時折訪問したり、声かけをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買物や散歩、外気浴、野菜づくりなどに関する意向を聞き、前向きに検討し実施している。	職員は日ごろの行動や表情、会話の中から利用者の思いや意向の把握に努めている。また、家族から話を聞いたり協力を得ながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に聞いたり、記録等により把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解し、できることとできないことを見極め、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を第一に考えてカンファレンスやモニタリングを行い、可能な限り実現に向けたケアプランの作成に努めている。	計画作成担当者はケア会議を開催し、本人や家族の希望にそった介護計画になるようアセスメントやモニタリングを繰り返し行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を記入することで日々の変化を把握している。また、職員間で情報の共有化を図って計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの要望を聞き支援に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	AEDの講習や避難訓練を実施している。地域の方の協力のもと夏祭りを行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調に応じて受診の支援を行っている。日ごろから、対応してくれている。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。母体法人の医療機関がかかりつけ医の場合は、月2回の訪問診療を受けている。緊急時は、医療連携チャートを作成し、活用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良時等には、訪問看護師に相談・報告し、適切な指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日ごろから、医療機関との情報交換や相談を行っている。また、医師や看護師とコミュニケーションを図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについて、重要事項説明書で説明を行っている。状態の変化に応じて、再度話し合っている。	重度化した場合や終末期のあり方、延命治療等について入居時に文書で家族に確認してもらい、方針を共有している。医療連携体制を整備し、重度化した場合でも対応できる体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	積極的に勉強会や講習に参加し、実践力の習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接する事業所との連携はとれている。	年1回、夜間を想定した訓練を実施している。併設事業所も参加し、協力体制を整備している。食糧や飲料水の備蓄は法人全体で行っている。運営推進会議で地域の方に協力を呼びかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室への出入りやトイレ誘導等の声かけなど、十分に注意して対応している。	利用者一人ひとりに合わせた声かけや対応を行っている。個人情報保護に関する方針を事業所に掲示し、つねに意識しながら全職員で取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方の希望や自己決定について、一部の利用者はできている。利用者一人ひとりの状態に応じて自己決定を促すなどの支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせて希望に沿った支援をしているが、職員の都合を優先していることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣や入浴、外出時等、その人らしい身だしなみができるように衣類を選んでもらえるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	十分にはできていない。梅干しづくりや野菜づくりをしている。また、誕生会や行事等の食事については特別に行っている。	母体法人で作られた食事を提供しているが、味噌汁や副食1品は事業所内で調理している。誕生会は利用者の好みを聞き、食事への関心を引き出すための工夫をしている。利用者から干し柿や梅干の作り方を教わるなど、個々の力が発揮できるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェックを行い、医師や栄養士等に相談しながら行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後には、口腔ケアの声かけや一部介助等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ポータブルの片づけやトイレ誘導、ポータブルトイレ使用の介助を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、気持ちよくトイレで排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人ひとりに応じた飲み物や運動を行っている。また、整腸剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望等に合わせて入浴できるように努めている。また、入浴を拒む方には、気分転換を図り、タイミングを見計らって気持ちよく入浴できるように支援している。	週6日、入浴時間帯は午後から入浴できるようになっている。利用者の状況や希望に合わせて午前・午後を問わず入浴できるよう支援している。入浴を好まない方には根気よく声かけを行い、対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、ほとんどの方が安眠できている。また、希望を聞き快適に過ごせるよう温度調節を行っている。体調不良時には、随時確認しながら対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の確認を行いながら、服用してもらっている。状態を確認しながら見守っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや縫い物をしてもらっている。週1回程度、カラオケも楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出て日光浴や散歩をしている。また、希望に応じて近所のドラッグストアやコンビニへ買物に出かけている。気候がよい時には、ドライブをしたり、季節の花々を見物に出かけている。	利用者の希望にそって散歩や買い物、ドライブに出かけたり季節感を感じられるような外出事を企画している。また、家族の協力を得て、外食や喫茶店へ出かけられるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理ができる方は自分で所持している。買物や外食等の支払いもしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が自ら電話をかける機会は少ないが、希望があれば電話のとりつぎや手紙のやりとりを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花瓶に季節の花を生けたり、壁に季節感のある飾り付けをしている。	共用空間の壁画には季節感のある絵画等が飾られている。廊下にはソファが置かれ、ゆっくりとくつろげる空間となっている。トイレは車椅子が利用できるような十分なスペースがあり、利用者の不安が解消されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やホール、玄関等、好みの場所で過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	植物やぬいぐるみを置いたり、カレンダーを飾っている。居心地よく過ごせる工夫をしている。	居室には備え付けのベッドがあり、ぬいぐるみや孫の写真を飾る等、その人らしく生活できるよう配慮している。居室の入り口には表札がない部屋もあり、プライバシーを大切にしながら居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの西側に手摺りをつけ、転倒防止に努めている。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	3階 実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り時、理念を唱和し共有を心がけている。	地域との関係を重視した理念としている。理念に沿った支援ができるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩時の挨拶や会話を楽しむなどの交流をしている。	散歩や買い物等の際に挨拶している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭り等に、保育所や地域の子ども会等と一緒に参加している。	敬老会や新年会等の行事に参加してもらい、認知症の理解が得られるように努めている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、家族や委員に報告を行ってサービスの質の向上に活かしている。	2か月1回開催している。サービスの取り組み状況等の報告を行い、意見を聞いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアサービスの取り組み方やケアプランの立案などの助言をしてもらっている。	市主催の会議等に出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを行っているが、事業所の前に県道あるため施錠している。	玄関の施錠は行っているが、そのつど話し合い、身体拘束しないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての話し合いを行い、虐待の防止に努めている。	虐待についての話し合いを行い、虐待の防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	3階 実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の家族で利用している方がいる。	現在、日常生活自立支援事業を利用して いる方がいる。通帳の管理や現金の出し入れの支援を受けている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入・退居時に、書面で詳しく説明している。 不明な点などは、納得を得るまで説明している。	入・退居時に、書面で詳しく説明している。 不安や疑問点がないか伺っている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に対し、面会や行事で来訪された時に、要望がないか聞くように努めている。	面会時に、意見や要望、不満等ないかを尋ねている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に、現場の職員から運営に関する意見や問題点を聞いており、なるべく反映させている。	定期的に、現場の職員から運営に関する意見や問題点を聞いており、なるべく反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課において、職員一人ひとりを評価しており、モチベーションを上げられるように努めている。	人事考課において、職員一人ひとりを評価しており、モチベーションを上げられるように努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの希望に応じて、研修を受ける機会を確保している。	職員一人ひとりの希望に応じて、研修を受ける機会を確保している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市グループホーム連絡協議会を通じて交流している。また、認知症実践者研修で相互交流活動を行っている。	市グループホーム連絡協議会を通じて交流している。また、認知症実践者研修で相互交流活動を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	3階 実践状況	実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の体調や状態等に関する情報を、家族やソーシャルワーカーから聞いて把握している。本人の不安が少しでも和らぐように努めている。	入居前の体調や状態等に関する情報を、家族やソーシャルワーカーから聞いて把握している。本人の不安が少しでも和らぐように努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との会話の中で聞き出した要望をサービスに導入することで信頼関係を構築している。	入居前に家族に事業所に来てもらっている。サービス内容等について説明し、希望することなどを聞かせてもらっている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療機関の受診やリハビリテーション等の必要があるかを把握して支援に努めている。	事前に相談し、必要な支援を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔話など生活の知っていることを引き出し、コミュニケーションを多くとっている。	なるべく本人と接する機会を多くもてるように配慮している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	食事会や夏祭りなどで家族との交流を図り、より良い関係を築いている。	食事会等への参加を呼びかけてともに過ごす機会を設けている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力のもと、墓参りや馴染みの喫茶店に行っている。	本人の意向を大切に、家族や知人の面会の支援を行っている。また、外出の希望があればなるべく希望に添えるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	より良い人間関係を築けるよう、利用者同士で助け合えるような支援をしている。	利用者間のトラブルには、職員が仲裁に入っており、円滑な関係の構築に向けて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	3階 実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去に至った後でも、家族等からの相談に応じている。	退居後も、事業所の行事に参加してもらえるように呼びかけている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい考え方や思いが生かせるように意向をくみ取ることを心がけている。	利用者一人ひとりに接して希望を聞いている。また、家族に協力をお願いしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に話を聞き、希望や意向の把握に努めている。	本人や家族に話を聞き、把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者とのコミュニケーションを大切にしながら現状の把握に努めている。	その人に応じて対応している。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を第一に考えてモニタリングや3か月に1度のカンファレンスを行い、計画の達成度や今後のケアについて検討している。	本人や家族の意向を聞き、利用者一人ひとりに応じた計画を作成している。モニタリングやカンファレンスを開催し、達成度について検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態等に変化があるときは、プランの見直しを行っている。	利用者一人ひとりのファイルを作成し、利用者の状態を記録している。職員は、申し送りノートで情報を共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの要望を聞き支援に繋げている。	本人の状況や家族の要望に対し、柔軟な対応を心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	3階 実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	講習や避難訓練等を行っている。	定期的に避難訓練を行っている。消防署や地域の方の協力を得ている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する医療機関の受診を支援している。皮膚科や歯科等は、往診にて対応している。	母体医療機関の診察や皮膚科、耳鼻科等、利用者の希望する医療の受信を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携を図り、適切な受診の支援をしている。	日ごろの健康管理や相談は、訪問看護により実施している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入・退居時には、本人の状態を詳しく説明し、病気以外のことも話して、本人を総合的に理解してもらうように努めている。	やむ終えず入院に至った際には、本人が安心を得られるように声かけを行っている。医療関係者と経過等に関する情報交換に努めている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、書面で確認してもらっている。家族と話し合っ方針を共有している。	重度化した場合や週末期のあり方について、家族に文書で説明し確認してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	積極的に勉強会や講習に参加し、実践力の習得に努めている。	急変時や事故時の対応に関するマニュアルを作成し対応できるようにしている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、隣接する事業所と合同で避難訓練を行っている。	年2回、防災訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	3階 実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保に配慮し、ミーティングなどで話し合っている。	職員間で話し合っている。不十分なところもあるが、居室のノックや声かけ等に気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの思いや希望が叶うように、自己決定の場面を支援している。	本人の思いや希望を聞いてはいるが、十分に納得のいかないことや様々な不満等があるということを念頭において支援している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせて、希望に応じた支援をしている。	利用者主体で生活できるように配慮しているが、職員側の都合や行事、スケジュール等で決めていることもある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や朝の着替えなど、衣類を選んでもらっている。	身だしなみについては、本人の好みを聞き、職員が買い物を頼まれることもある。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、誕生会や老人会等の際、利用者の意向を聞き、献立を立てて好物をつくっている。	誕生会や行事、外食等、利用者の好物を作ったり、準備している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病や塩分控えめの利用者など、利用者の状態に応じた食事を提供している。水分量も一日を通じて確保できるよう心がけている。	食事・水分摂取量をチェックしている。足りない時は声かけや好みの物を用意している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアをしてもらっている。入れ歯の方は、職員が洗浄し朝食前に渡している。週1回は入歯洗浄液に浸けている。	声かけや見守り、一部介助にて対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	3階 実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を決めてトイレに誘導している。排泄の失敗やパットの使用を減らしている。	排泄を失敗しても気にすることのないように、さりげない支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の指示により、服薬や運動等、個別の予防をしている。	毎日、排泄の有無を確認し、利用者一人ひとりに応じた薬の服用や運動の声かけを行っている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日の入浴の声かけを行い、健康状態に異常のないときは週3回は入浴している。	所定の日の午後からが入浴の時間となっているが、汚染等があった時にはそのつど入浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりのペースに応じて休息できるようにしているが、昼夜逆転しないように日中の活動を支援している。	利用者一人ひとりのペースで休息をとってもらっている。また、夜間眠れるように、日中はなるべく離床を促している。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理し、服薬の支援している。症状の変化があるときは訪問看護師に相談し受診している。	処方されている薬の説明書を個別のファイルに整理して、作用や副作用等を把握できるようにしている。服薬の確認を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんでもらったり、トレイを拭いてもらっている。	日曜日にはカラオケを楽しんでもらっている。洗濯物たたみ等を積極的に行っている。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、近隣のスーパーや散歩に出かけている。	天気の良い日には、事業所周辺の散歩や買い物、ドライブ、外気浴を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	3階 実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近隣ののスーパーへ出かけて、買い物をすることによりお金を所持したり使えるようにしている。	多くの方は事業所で預かっており、必要な買物等をしている。自分で持たれている方もおり、買物時に支払いをしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話の取り次ぎを行っている。年賀状等を出す支援も行っている。	希望時に電話したり、取り次いだりしている。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に花等を植えている。ホールの壁等に季節感のある飾り付けをしている。	玄関や廊下、ホールに飾り付けをしており、季節感を感じられる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室で生活している。ホールに出て来て談話する方もいる。	廊下のソファや玄関の椅子で気軽に座って会話を楽しめるようにしている。食堂も、なるべく気の合う利用者同士が並んで話ができるように配慮している。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーや写真等を飾り、居心地よく過ごされるよう工夫している。	利用者の好みや馴染みの物等を活かして生活できるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	段差をなくし、転倒を防ぐようにしている。	バリアフリーに努め、安全に生活できるように配慮している。	